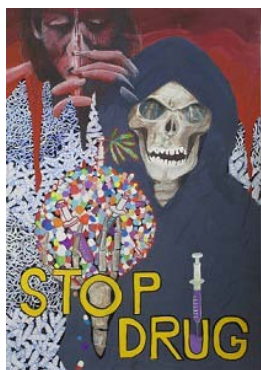


10月 依存症家族勉強会のお知らせ

中学校の出前授業に行ってきました

中学1年生の薬物乱用防止教育に来てほしいという依頼があり、行ってきました。警察の担当時間の後半時間をいただくという形でした。10代の子どもたちはいったい薬物依存症にどんなイメージを持っているのでしょうか？インターネットで薬物乱用防止ポスターを画像検索してみました。すると下にあるようなポスターがいっぱい出てきました。一言でいうと、「薬物をやる人は人間じゃない」「一度手を出すと二度と戻れない」というものです。では実際の中学生はどのように考えていたのでしょうか？



出前事業の感想で、続々と出てきたのは「ぼくは今日の話聞くまでは、薬物は1回やったら抜け出せなくて、人をあやめたりぼうそうするのかなと思っていました」「私は今日までは依存症になった人はもう元にはもどれないと思っていました」「薬物は一度やってしまうと一生やめられないと思っていました」「今までは薬物は絶対にしてはいけない、健康に悪い、止められなくなるという話しか聞いていませんでした」「薬物依存症の人は全員怖い人で危険な人だと思っていました」「薬物やる人はヤバイ人、もうダメな人と思っていました」などでした。子どもたちは一体どこでこんな考えを持つようになったのでしょうか？このまま大人になるとどうになってしまうのか、恐怖を覚えました。

本当の教育ってなんだろう？

ダメ、ゼツタイというフレーズの出典はおそらく下の「ドラッグにノーを、人生にイエスを」という標語ではないかと思われます。人生にイエスを、が完全に欠落しています。その結果、薬物の弊害しか強調されず、結果感想にあったような見方になっていったのだと思います。この人生にイエスというのは薬物を使わない人の人生のみ肯定されるというようなものではないはずです。すべての人が自分の人生にイエスと言える社会や生き方がメッセージの中心部分です。薬物乱用防止教育はなんのためにあるのかと考えると、人として生きていくうえでなにが大切なのかを学ぶためではないでしょうか。危険な薬物になぜ手を出してしまうのか、自分の生活が壊れることも知りながらなぜ止めることができないのか、薬物をやる人はみんな人間失格なのか、そういうことを自分で考えてみるこそ大事ではないでしょうか。誰かを排除して当然という考えは「人生にイエス」になることはありません。

出前授業ではそこに重点を置いてやってみました。(来月に続く)



10月13日(土)AM10時～勉強会B(意見交換会)/新館ミーティングルーム
10月27日(土)AM10時～勉強会A(講義と練習)/依存症研究所研修ホール